

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会
は設立 50 周年を迎えました

季刊

みる・きく・ふれる 文化財

おうみ文化財通信

vol. 53

Information of Cultural Heritage in OHMI

2022 Autumn

【調査速報】古墳時代前期の鍛冶工房を発見！－栗東市出庭遺跡－

【展示案内】滋賀県立琵琶湖文化館・野洲市歴史民俗博物館・守山市地域連携企画展
「近江湖南に華開く宗教文化－野洲・守山の神と仏－」

【展示案内】滋賀県埋蔵文化財地域展Ⅳ・協会設立 50 周年記念事業
「滋賀をてらした珠玉の逸品たち」人気投票結果発表!!

【展示案内】滋賀県立安土城考古博物館 令和 4 年度秋季特別展 開館 30 周年記念
「里帰り！日本最大の銅鐸－太古の響きを安土の地で－」

【お知らせ】文化の日の体験学習
鍛冶体験－古代の鍛冶職人に学ぶ、ナイフ作りに挑戦－



【調査速報】

古墳時代前期の鍛冶工房を発見！

りっとうし で ばいせき

栗東市出庭遺跡－一般国道 8 号野洲栗東バイパス建設工事に伴う調査－



建物跡は方形で5.4×5.1m
の規模です。4本の柱跡と2基
の対になる土坑、中央付近に
炉が2か所設けられていました。
北隅には、当時の床面に土器
が残されていました。

写真1 古墳時代前期の鍛冶工房

(写真提供：滋賀県)

出庭遺跡は栗東市出庭を中心に広がる古墳時代の大集
落として知られています。これまでの調査で、玉作りなど
の手工業工房跡をはじめ、多数の遺構がみつかっています。
一般国道 8 号野洲栗東バイパス建設に伴う 5 年間にわた
る調査を通じて、古墳時代前期から中期前半（約 1,700 ～
1,600 年前）の鍛冶工房群 * があったことが明らかになり
ました。

昨年度と今年度の調査では古墳時代前期（約 1,700 年
前）の竪穴建物が 16 棟みつきり、そのうち 13 棟で鍛冶

ろあと
に関する炉跡が検出されました。このことから、鍛冶工
房群が南北 550m におよぶ範囲に分布していたことが明ら
かになりました。同時期の鍛冶工房は全国の約 30 遺跡で
確認されていますが、1 遺跡あたり 1～3 棟にとどまり、
出庭遺跡の 13 棟は突出して多いことが注目されます。今
回の発掘調査成果は、古墳時代の鍛冶の技術的な歴史と
地域の歴史を考えるうえで、極めて重要です。

* 鍛冶工房：鉄を加工して、鉄器を製作していた工房のこと。

【詳しくは次のページ】

●**竪穴建物と被熱した炉**

竪穴建物の床面に強く被熱した炉がみられることは、建物が鍛冶工房であった証拠の一つとなります（写真 2）。なんらかの送風機を用いることで炉内を 1000°C前後まで高温にしていたと考えられ、炉の中央は強く被熱して硬化しています。その周囲には焼土が同心円状に広がり、鍛冶炉の特徴がみられます。

今年度の調査では、5 棟の古墳時代前期の竪穴建物を検出しました（写真 3）。そのうち 4 棟は強く被熱した炉跡を有し、床面で金属反応が確認されました。建物内部からは、煮炊き具と考えられる土器だけでなく、鍛冶作業に使われたと考えられる敲き石や砥石等の鍛冶具、そして直径1～2mmほどの微細な鉄片が出土しています。これらの出土遺物の存在から、建物内では鍛冶が行われていたと考えられます。それら鍛冶工房は互いに重複することなく建てられ、利用されてきたようです。

●**発見された鍛冶作業の痕跡**

熱した鉄を敲いたり、曲げたりする作業の中で、飛び散ったと考えられる鉄片が土の中に残されていることが分かりました（図）。今回の調査では、竪穴建物の床面の土を繰り返し水洗した後、丁寧に磁石を使ってそれらを見つけ出しました。気の遠くなるような地道な作業の繰り返しを通じて、現地では取り上げることが難しい微細な遺物の回収をしています。

●**竪穴建物の状況と評価**

これまでの調査を通じて見つかった古墳時代前期の竪穴建物の床面積は、最大で 100 m²、最小で 9.24 m²と大きささまざまです。また、炉の構造や土坑の配置には複数のパターンがありそうです。

続く古墳時代中期になると、隣接する辻遺跡と出庭遺跡でみつかった鍛冶工房の建物規模や屋内遺構は画一的になります。中期の画一的な鍛冶工房と比べて、バリエーションがみられる古墳時代前期は、鍛冶の方法や工程等を含めて試行錯誤していた段階にあったと考えられます。



写真 2 強い熱を受けた鍛冶炉

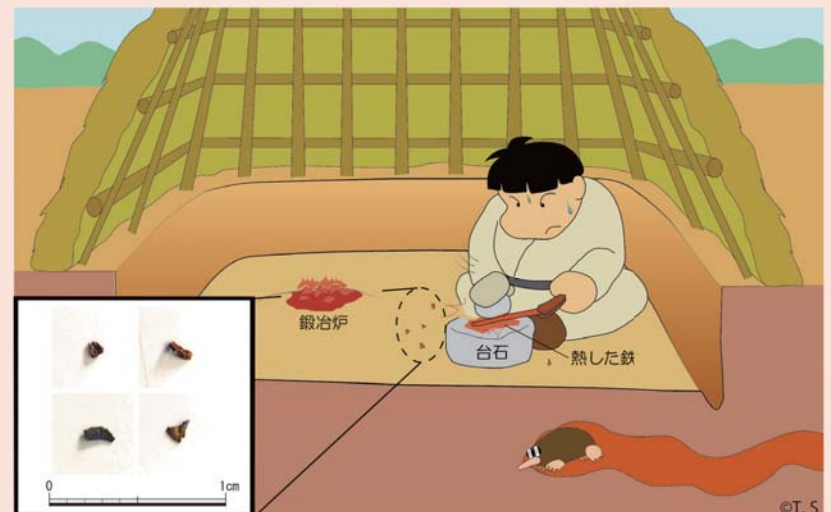


図 鍛冶作業想像図と、出土した微細な鉄片



写真 3 みつかった竪穴建物

(写真提供：滋賀県)



しじみちゃん



こちらから R4 現地説明会資料がご覧いただけます！

しがぶんちゃん



どきっち

【展示案内】滋賀県立琵琶湖文化館・野洲市歴史民俗博物館・守山市地域連携企画展

「近江湖南に華開く宗教文化－野洲・守山の神と仏－」

現在休館中の琵琶湖文化館の収蔵品を、地域と連携して公開していく「地域連携企画展」。今回は、野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館）を舞台に、旧野洲郡域の仏教、神道文化を紹介します。野洲郡は、益須寺をはじめ古代より仏教文化が花開いた地で、多くの貴重な仏教美術品が今に伝わります。また、御上神社や兵主神社は信仰の中心地として栄え、両社に伝来する文化財より神仏習合の様相がうかがえます。さらに金森や錦織寺など、中世以降は浄土真宗の拠点としても栄えた地でした。本展では、琵琶湖文化館と野洲市歴史民俗博物館の収蔵品を中心に、今回新たに発見された寺外初公開の仏像等を交え、重要文化財3件、県指定8件、野洲市・守山市指定12件を含む名品の数々を一堂に公開します。

【開催期間】令和4年10月8日（土）～11月27日（日）

【会場】野洲市歴史民俗博物館（野洲市辻町57番地1）

【開館時間】午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【休館日】月曜日（10/10日は開館）、10/11（火）、11/4（金）、11/24（木）

【入館料】大人500(450)円、高大生350(300)円、小中学生250(200)円

※()は20人以上の団体料金

※野洲市民は入館無料

※身障者手帳等所持者とその介護者1名は入館無料

※関西文化の日 11月19日（土）、20日（日）は全員入館無料



○如意輪観音像
（重要文化財）鎌倉時代
（野洲市法蔵寺蔵）

平安時代の様式を残した鎌倉時代初期の作。滋賀県を代表する仏教絵画の名品。長く引かれた眉と強くくびれた腰がインド風を彷彿とさせる。



○阿弥陀如来立像
鎌倉時代（野洲市 西林寺蔵）

本展の調査をきっかけに再確認された鎌倉時代の阿弥陀如来像。仏師快慶やその高弟行快の作風が顕著な隠れた名品。寺外初公開。

（写真提供：滋賀県立琵琶湖文化館）



文化館 HP

【お問合せ】滋賀県立琵琶湖文化館

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜地先

電話 077-522-8179 FAX 077-522-9634

E-mai: biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp

URL <http://biwakobunkakan.jp/>

【展示案内】滋賀県埋蔵文化財地域展Ⅳ・協会設立50周年記念事業

「滋賀をてらした珠玉の逸品たち」人気投票結果発表!!

滋賀県埋蔵文化財センターで開催している「珠玉の逸品展」では、協会が設立された1970年から2019年までの50年の発掘調査成果から、各年におけるナンバーワンの遺物を調査員が選定して展示しています。その中から、来館者の方々に投票していただく人気投票「珠玉の逸品グランプリ!!」を夏休み限定（7/23～9/4）で開催し、合計500もの清き一票を投じていただきました。

栄えある第1位に輝いたのは、縄文時代の土坑墓（大津市・滋賀里遺跡出土）でした！今から約3,000～2,700年前の土坑墓に埋葬された人骨を、保存処理して保管してあるものです。数ある逸品の中でも、圧倒的な票数を得たこの遺物について「はじめてみた人骨に衝撃を受けた！」「いまでも息づかいが感じられるほどリアル！」といった感動の声をたくさんいただきました。ちなみに第2位は縄文時代草創期、今から約13,000年前の土偶（東近江市・相谷熊原遺跡出土）、第3位は室町時代、今から約500年前の魚形水滴（甲賀市・貴生川遺跡出土）です。いずれも小さいながら精巧な作りで、「かわいい！」「見ていて癒される！」などの声をいただきました。

展覧会は11/18まで続きます。多くの方々に感動を与えた逸品たちをこの機会にぜひご覧ください。

【開催期間】令和4年7月23日（土）～11月18日（金）

【開館時間】午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【休館日】土・日・祝日（11/3（木・祝）、11/6（日）、11/12（土）は開館）

【入館料】無料

【会場】滋賀県埋蔵文化財センター1階ロビー（大津市瀬田南大萱町1732-2）

【お問合せ】公益財団法人滋賀県文化財保護協会

〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2

電話 077-548-9780

（平日 午前8時30分～午後5時15分）

●展示している主な遺跡

蓮華文方形軒瓦（大津市・榎木原遺跡）、水鳥形埴輪（高島市・妙見山C-1号墳）、木偶（野洲市・湯ノ部遺跡）、小銅鐸（栗東市・下鈎遺跡）、土偶（東近江市・相谷熊原遺跡）、双環柄頭短剣鋳型（高島市・上御殿遺跡）など、調査員がセレクトした逸品約50点（一部レプリカを含む）

●会場・内容の詳細は当協会HP（<http://shiga-bunkazai.jp/>）まで



東近江市相谷熊原遺跡出土 土偶



甲賀市貴生川遺跡出土 魚形水滴



大津市滋賀里遺跡出土 土坑墓

（写真提供：土坑墓・土偶 滋賀県、魚形水滴 甲賀市教育委員会）

やむをえず、会期を変更する場合がございます。最新情報は協会ホームページでご確認下さい。

【展示案内】滋賀県立安土城考古博物館 令和4年度秋季特別展 開館30周年記念

「里帰り！日本最大の銅鐸ー太古の響きを安土の地でー」

安土城考古博物館の開館30周年を記念する今回の秋季特別展では、滋賀県を代表する考古遺物である大岩山銅鐸^{おおいわやまどうたく}を紹介します。

大岩山銅鐸とは、野洲市大岩山から明治14年に14点、昭和37年に10点の合計24点が出土した銅鐸です。ごく近接した地点から出土したもので、島根県加茂岩倉遺跡から39点の銅鐸が発見されるまでは、全国でもっとも多くの銅鐸が出土した場所として知られていました。このように一ヶ所に多数の銅鐸が埋納^{まいのう}されている例はときおり見られますが、巨大化した弥生時代後期の銅鐸を多数埋納した大岩山遺跡は全国でも突出した例です。そのなかには日本最大の銅鐸も含まれていました。

邪馬台国^{やまたいこく}が現れる直前の段階に、なぜ近江の地に大量の銅鐸が埋納されたのでしょうか。今回は東京国立博物館所蔵の日本最大の銅鐸を含む大岩山銅鐸を集め、この時代に近江の地が担った歴史的な役割を探ります。



大岩山古墳群最古の銅鐸（古富波山古墳出土）
（個人所蔵 写真：野洲市歴史民俗博物館提供）



日本最大の大岩山銅鐸（東京国立博物館所蔵）
（写真：ColBase（<https://colbase.nich.go.jp/>））

【開催期間】令和4年10月8日（土）～11月20日（日）

【開館時間】午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【休館日】開催期間中の月曜日

（月曜日が祝日の場合はその翌日）

【入館料】大人900（690）円、高大生640（470）円

小中学生420（310）円、県内高齢者（65歳以上）460（350）円

※（ ）は20人以上の団体料金。

※「信長の館」は休館中のため、共通券はありません。

【お問合せ】滋賀県立安土城考古博物館 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦6678

電話0748-46-2424 FAX0748-46-6140 URL：<https://www.azuchi-museum.or.jp/>



博物館 HP



まめのぶくん

やむをえず会期を変更する場合がございます。最新情報は当館ホームページでご確認下さい。

ご入館の際はマスクを着用し、手指の消毒にご協力ください。発熱などカゼの諸症状のある方はご入館をお断りすることがあります。

【お知らせ】文化の日の体験学習

鍛冶体験ー古代の鍛冶職人に学ぶ、ナイフ作りに挑戦ー

古代の近江（滋賀県）は日本有数の鉄生産地でした。滋賀県埋蔵文化財センターのあるびわこ文化公園内にも源内峠遺跡^{みなとうげ}という古代の製鉄遺跡があります。文化の日の体験学習では、鉄に関する体験として鍛冶体験を実施します。ふるってご参加ください。

【開催日】令和4年11月3日（木・祝）

第1回 午前10時～午前12時

第2回 午後2時～午後4時

【定員】各回10名【参加費】500円

【対象】小学生～一般（小学生の参加は保護者の付き添いが必要）

【お申し込み方法】往復ハガキでお申込みください。

応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

【受付期間】10月17日（月）必着

*詳細はホームページ（URL：<https://shiga-mc.sakura.ne.jp/>）をご覧ください。

【お問合せ】滋賀県埋蔵文化財センター 〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2

電話077-548-9681（平日 午前8時30分～午後5時）

E-mail: shigamaibun-center@guitar.ocn.ne.jp



センター HP



しじみちゃん

やむをえず中止する場合がございます。最新情報はセンターホームページをご確認ください。